

Move Mountains

○積読（つんどく）

『翻訳できない世界のことば』の中にも「積読」が出てきます。日本独自の言葉のようですね。

こちらの本、イラストもかわいくてとてもおすすめです。

世界のおもしろい言葉にも触られます。

マレー語 pisan zapra…バナナを食べるときの所要時間。

ドイツ語 Kummerspeck…悲しいベーコン=食べすぎが続いて太ること。

スペイン語 ctisuelto…シャツのすそを絶対ズボンの中に入れようとしない男。

なぜそこを言葉にするのだろう？と思うものもあります。しかし、それは日本語の中にもたくさんあるのでしょ。

世界の見方はたくさんあります。言葉から見てみるのもおもしろいかもしれませんね。

さて、我が家のリビングの一角です。常にこの状態にしてある小さなテーブルがあります。

そう、積読テーブルです。20冊ほど積んであります。以前は、気になった本は全て買っていました。瀬戸へ引っ越してくるとき、衣類は段ボール1箱でしたが、本は15箱の有様…。

ライフステージも変わり、そうもしてられなくなったので、公共図書館を活用しています。



おおよその自治体では在住または通勤・通学していることが図書館カードを作る条件になっています。

私の知る範囲ですが、瀬戸市、長久手市、日進市、尾張旭市は協定を結んでおり、いずれかの自治体に在住していると、4つの自治体で図書館カードを作ることができます。



(在住していない自治体は予約ができないなどの制約があります)

そのことを知り、瀬戸市で10冊、長久手市で10冊、計20冊はいつでも借り続けています。どちらも期限は3週間です。なので、3週間で最低20冊は本に目を通しています。(読んでいるではないところがポイントです。読書術については、また書こうと思います。)

文字ばかりの本だけではありません。図鑑もよく借ります。買うと高いですし、重くて本棚が崩れがちですから…。

こうして、私は本を読まざる(見ざる)を得ない状況を作っています。せっかく借りてきたのに放置しては、場所と借りる労力を無駄にした感じがしますから。

疲れ切って全く読まない時もあります。それでも借ります。とにかく、本がそこにある状態が大切だと思っています。

実業家であり、著述家の執行草舟氏は「本は読むことが一番だけれども、買って並べておくだけですごく精神が知的になる。**積読で100点ではないけれど、80点くらいにはなる。**」と言っています。

この言葉を真に受け、とにかく本に触れるようにしています。図書館で借りた本で精一杯ですが、新刊やどうしても欲しい本は買います。するとそれらが積まれていきます。

探究という学問の道を歩むためには、読書は欠かせません。

文献に当たらずに進む研究というのはありません。たいていのことは、偉大な先人が一度は試しています。それを知った上で新たな提案を重ねていくことが学問の歩みです。

どのくらい読書していますか。本に触れていますか。本を見ていますか。

公共の図書館も、学校の図書館も使わない手はありません。みんなで出し合ったお金であんなにたくさんの本に触れるのです。むしろ使わないと損しているくらいです。

毎月20冊借りろとは言いません。週に1冊でいい。読まなくてもいい。本に触れ続けることが大切。

さあ、まずは今日1冊借りにいきましょう！

○参加フォーム立ち上げ！

いつもお読みいただきありがとうございます。これまでの経験では通信を印刷し、配布しておりました。机の奥からしわくちゃの状態で見ついたり、お便りを入れるファイルがパンパンになっていたりする子もいましたが、家庭に届いているかどうか可視化されてきました。

デジタルの配信は、枚数を気にしなくていいこと、写真をカラーでお見せできることが大きなメリットですが届いているのか少し不安です。

フォームを作成しました。お時間許しましたら「読んでます」の一言でも、飛び上がって喜びます（本当です）。

これまでも参観にいらっしゃった際や、メールでご連絡いただいた際に通信についてのコメントをいただいております。本当にありがとうございます。

☆お便りフォームはこちら☆

<https://forms.gle/ndGkDHTYcmB1bWyU9>



どうぞよろしくお願いいたします。